

2021年(令和3年)
6月(創刊号)
発行: 東志賀学区
連絡協議会

東志賀ヒーローズ

町のお助け隊 奮闘中!

地域支えあい事業 困りごと、ご近所力で解決

東志賀学区には、身近な困りごとの解決に力を貸してくれる「ヒーロー」がいる。地域支えあい事業のメンバーたちだ。登録ボランティア数は何と120人。新型コロナウイルスの感染拡大による外出制限で、孤立化が心配される昨今。住民同士の絆を維持し、より深めるため、地道な活躍を続けている。

ゴミ出し、電球交換、見守りも

学区福祉推進協議会
が市社会福祉協議会と

連携し、高齢者らの支
援事業として推進して

いる。これまで、粗大
ゴミの搬出や電球の交
換、車いすからベッド
への移動補助、家具の
組み立て、庭木の剪定

など多くの困りごとの
解決に一役買ってきた。
高齢者や子どもの見守
りのほか、最近では新
型コロナのワクチン接
種の予約も手伝った。
東志賀コミュニティ
センターで相談を受け



付け、支援の内容に応
じてメンバーを選し
て派遣している。
新型コロナウイルスの拡大で
メンバーが心配してい
るのが、住民の孤立だ。
事業の活動は、支援す
る側にとっても、され

る側にとっても貴重な
交流の場になっている。
学区連絡協議会会長の
山崎愷男さん(71)
は「東志賀は地域への
関心が高い人が多く、
活動が活発です。市内
の他の学区のモデルケ
ーになっていきます」と
胸を張る。実際に、愛
知学院大学での講義や
各種講演会に招かれる
など、活動は注目され
ている。
一方で、課題はボラ

ンティアメンバーの高
齢化だ。山崎さんは
「現役世代など、多様
な世代が仲間に加わっ
てほしい。仕事が休み
の日の活動だけでも大
丈夫です」と話してい
る。
同時に、地域には支
えあいの活動をまだ知
らない人もいる。困り
ごとと直面する本人に
限らず、近所の住民か
らの情報提供も呼び掛
けている。

庭木すっきり、剪定に出動

5月末の朝。支えあ
い事業のボランティア
メンバー15人が「と
もに暮らす東志賀」と
プリントされたお揃い
のベストを着て、団地
の庭木の剪定に出動し
た。依頼者は80代の
独居女性。若いころ、
庭に植えたキンカンの
木が大きく育ちすぎ、
困っていた。
メンバーはキンカン
のトゲに注意しながら、
チェーンソーで枝を落と
し、枝切りばさみで細
かくして、ごみ袋に詰
めることもできず、困っ

めていく。連係プレー
によって一時間ほどで、
庭木はすっきりした。
チェーンソー担当とし
て大活躍だったのが、
田村憲一さん(73)。
シルバー人材センター
の仕事の経験を活かし
た。作業後、汗をぬぐ
い、「みんなでわいわ
いやるのが楽しい。こ
れから、もっと高齢者
が増えていく。役に立
てるのがうれしい」と
話した。依頼者の女
性は「私一人ではどう

ていました。助かりま
した」と笑顔だった。

困りごと、気軽にご相談を!
窓口: 東志賀コミュニティセンター
開設日時 毎週水・金曜日
9:30~12:30
お電話でも受け付けます
☎080-3651-7435

キッズもママも、笑顔満開

幼児教室「くれよん」に集合！

毎週金曜日の朝、コミュニティセンターは幼い子どもたちの笑顔と歓声で華やぐ。幼児教室「くれよん」の日だ。幼稚園や保育園に通う直前の2〜3歳児が通い、体操や手遊び、絵本などを楽しんでいる。子育て中のママにとつては貴重な情報交換の場になっている。

入園前の子ども大募集

教室は元幼稚園教諭の小川滋子さん（守山区在住）と、絵画講師の鈴木玲子さんの2人が、金曜日の午前10時から2時間、開いている。「おはよう」のあいさつで始まり、自由遊び、体操の後は工作などに熱中し、おやつ



「さようなら」で別れ。これは、幼稚園や保育園の一日を再現したスケジュール。「子どもにとつては、お母さんと初めて離れて過ごす貴重な時間です」。鈴木先生は「子育て中

のママは一人になれる時間がほとんどない。「買い物やお友達とのカフェの時間がつくれる」と喜ばれています。

と語る。入園を控えた子どもにとつても、ママにとつても、同世代の友達をつくる機会だ。お母さ

幼児教室「くれよん」
金曜日10時～12時
年会費3000円（季節行事に使用）
月謝2500円
問い合わせや参加希望は小川先生
☎090（5618）7724



小川先生「地域との交流楽しみ」

幼児教室「くれよん」の小川滋子先生は、「今後、学区の皆さんとの交流を一層深めていきたい」と話す。教室中、地域のお年寄りが、かわいい子どもたちに会うために顔を出してくれる。「コロナ対策で、教室が始まる前から、部屋を換気してくれる方もいて本当にうれしいです」。おもちゃや履物をプレゼントしてくれた住民もいたという。

幼児教室としてコミセン祭りに参加し、恒例のクリスマス会では、地域の住民がサンタクロース役をしてくれている。「学区の活動として認めてもらってありがたい」と感謝する。

カフェサロンや女性の会などコミュニティセンターを拠点にする団体は多い。「例えば、手先を使った遊びや工作を一緒にしたり。学区の方と何かができたら楽しくなる」。普段は高齢者と触れ合う機会が少ないキッズやママも多い。「自分のことを大事に思ってくれる人が、地域にたくさんいることは、子どもにとって素敵で、大事なことだと思います」

「東志賀で活躍している人たちが、点ではなく、輪のようにつながっていくための発行物があつたら、ありがたい」。学区連絡協議会の山崎悦男会長からそんな相談を受けました。

「ヒーローズ」が数多くいらつしやいます。今後、こうした人々を紹介していくことで、それぞれの活動がさらに広がり、新たな連携が生まれていくことを期待しています。

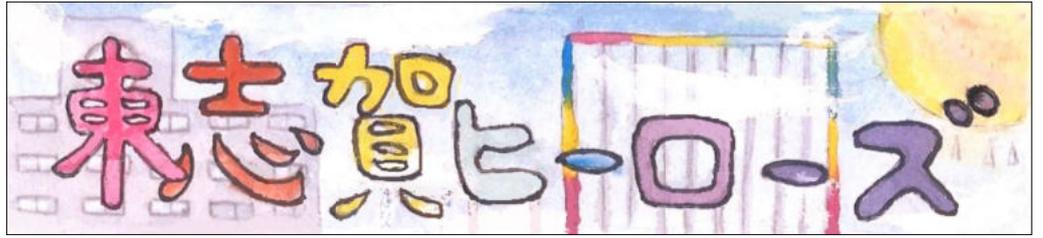
「ヒーローズ」創刊に寄せて

「東志賀で活躍している人たちが、点ではなく、輪のようにつながっていくための発行物があつたら、ありがたい」。学区連絡協議会の山崎悦男会長からそんな相談を受けました。

「ヒーローズ」が数多くいらつしやいます。今後、こうした人々を紹介していくことで、それぞれの活動がさらに広がり、新たな連携が生まれていくことを期待しています。

ヒーロー、団体の情報募集中

この人やあの団体をヒーローズで取り上げてほしいという情報がありましたら、鈴木までご連絡ください。☎080・3502・3534



早起き隊 公園ピカピカに

東志賀公園 「寿会」メンバー活躍

まだ街が起き出す前の午前5時半。竹ぼうきや熊手を手にしたお年寄りが東志賀公園に集結した。アーバンラフレ志賀寿会のメンバーたちだ。子どもたちや高齢者らで賑わう公園を快適に使ってもらうため、暑い時期も、寒い時期も清掃を続けている。



東志賀小学校や北図書館、北文化小劇場に隣接する同公園は、敷地面積5800平方メートル。滑り台やブランコ、ぶら下がって滑空するターザンロープ、バスケツ

トゴールなど多彩な遊具がそろい、児童や園児らに人気のスポットだ。高齢者はグラウンドゴルフの練習や試合などに活用している。

市から公園の管理を任されているのが、アーバンラフレ志賀寿会。第2、4週の水曜日(秋は毎週水曜日)の午前5時半から約1時間、空き缶、ペットボトルなどのゴミや落ち葉を拾い集める。毎回15人ほどが参加し、人員を増強する秋には50、70袋分の落ち葉が出るという。新型コロナウイルス禍でも、感染防止対策を徹底し、活動を継続。作

業が終わった後はお菓子を食べて、親睦を深めている。リーダー1時間早い、午前

ダー役の三溝芳隆さん(91)は会員より1時間早い、午前

4時半からスコップを使って砂場を整備している。「学区にとって大切な公園。きれいに、気持ちよく使ってもらいたい」と話す。近年、利用者の意識が向上し、空き缶や犬のふんなどが減少しているという。

ラッシュ時の安全を守る!

死亡事故ゼロ900日達成



北区が交通死亡事故ゼロ900日の新記録を達成した。快挙を支えているのが、通勤・通学ラッシュ時の街頭指導。「ゼロの日」の午前7時半から8時半まで、交通量の多い黒川駅前との交差点に「横断中」の旗を持って立ち、歩行者の安全を守っている。

学区の交通委員会が中心となり、各町内会や民生協議会、女性の会、防犯委員会、体育委員会、消防団、老人クラブ、保護司会など、地域の人材をフル動員し

て活動している。北区内で最後に死亡事故が発生したのは2018年2月(21年6月末現在)記録が残る1948年以降で最も長い期間、死亡事故ゼロを継続している。学区交通委員長岡本茂彦さん(91)は「以前は年間3、4件ぐらいの死亡事故があった。ドライバーに姿を見せることで、安全運転の意識が高まる」と今後の活動に意欲を見せた。

新聞の題字 キッズ提供

「ヒーローズ」のために地域の子どもたちが、題字(タイトル)のデザイン画を寄せてくれました。今後、順次、紙面に掲載していきます。ほかの方からも募集しています。第2号の題字は東志賀小6年、寺嶋彩音さんの作品です。

老人クラブ、交通安全…キーマンに聞く

現役バリバリ 90代の英雄!

岡本茂彦さん(91)



老人クラブのリーダー三溝芳隆さんと、交通安全など学区の活動の先頭に立つ岡本茂彦さんは同級生。戦中育ちの「90's (ナインティーズ)」のお2人に、活動への思いや学区の魅力、長寿の秘訣を聞きました。

三溝芳隆さん(91)



◆パワーに驚きます
三溝さん やつぱり、役員をすることが張り合いになってるんだよね。楽しいことだけじゃない。苦労もある。私は座右の銘が「敢行」だね。中途半端で投げ出すことが嫌なんですわ。
岡本さん 皆さんから「元気だね」と言ってもらおう。人と

おかもと・しげひこ 昭和四年八月、千種区で生まれる。昭和二十六年に志賀町へ移住。旭精機工業で勤務した時代は女子卓球部創設に関わり、監督として屈指の強豪に育てる。少年野球の指導、審判員としても活躍。十九年間、学区連絡協議会会長、昭和四十年代から平成十六年まで体育委員長を務める。現在は交通委員長兼顧問。

◆岡本さんは交通安全の場ですよ。
「俺は『痛い』じゃない。あなたに『会いたい』」って冗談を言っていますわ。
◆三溝さんは名古屋市の老人クラブのトップです
三溝さん 若いころ、地域に助けてもらった恩返しのためですわ。でもね、今は定年が延びたのでしょ。60代がなかなか集まらない。日々の交流は大事だと思うんだが。公園の清掃は終わった後のお茶が楽しみ。「あの人は元気だ」「今は入院している」とかね。貴重な情報交換の場ですよ。

しまべることが好きでね。「体が痛い」という高齢者もいる。「俺は『痛い』じゃない。あなたに『会いたい』」って冗談を言っていますわ。
◆三溝さんは名古屋市の老人クラブのトップです
三溝さん 若いころ、地域に助けてもらった恩返しのためですわ。でもね、今は定年が延びたのでしょ。60代がなかなか集まらない。日々の交流は大事だと思うんだが。公園の清掃は終わった後のお茶が楽しみ。「あの人は元気だ」「今は入院している」とかね。貴重な情報交換の場ですよ。

さみぞ・よしとか 昭和五年三月、リンゴの産地の長野県池田町で生まれる。昭和十九年、海軍航空隊飛行予科練習生入隊。除隊後、東洋レイヨン滋賀事業所に入社。定年退職を機に東志賀学区へ移住。平成十八年、北区老人クラブ連合会会長に就任、平成二十七年からは名古屋市老人クラブ連合会会長を務め、現在四期目。

三溝さん「若いころの恩返し」 岡本さん「地域のため骨折る」

◆全分野のトップです
岡本さん 黒川駅前の街頭指導も人練りが大変。若い人は仕事がある。やつぱり我々の仕事。活動がなかったら、もつと事故が多いかもしれない。やらされているのではない。自分の地域のために率先してやっていると
◆学区の良いところは
三溝さん 一つの時代も良いリーダーが出てくるよね。
岡本さん 学区連絡協議会の山崎悦男会長の陣頭指揮の下、「一緒にやる」という意識が強い。支え合いの精神は区の中で1、2番を争っていると思う。

◆健康や長寿の秘訣はありますか
三溝さん 毎朝4時から1時間、歩くことだね。あとは晩酌かな。巨人戦の中間を観ながら。韓国焼酎の「JINRO」が特においしい。
岡本さん 若いころ、野球で鍛えた。4歳上の姉もまだまだ元気。父も祖父も94歳まで生きたから、血筋だね。人を楽しませるために、冗談も言いますわ。お年寄りには、転んで骨折るなら、地域のために骨を折れつてね。
◆目標や夢は
三溝さん もっと長く生きたい。老人クラブの役員を引退したら、時間を気にせず、温泉や美術館

◆健康や長寿の秘訣はありますか
三溝さん 毎朝4時から1時間、歩くことだね。あとは晩酌かな。巨人戦の中間を観ながら。韓国焼酎の「JINRO」が特においしい。
岡本さん 若いころ、野球で鍛えた。4歳上の姉もまだまだ元気。父も祖父も94歳まで生きたから、血筋だね。人を楽しませるために、冗談も言いますわ。お年寄りには、転んで骨折るなら、地域のために骨を折れつてね。
◆目標や夢は
三溝さん もっと長く生きたい。老人クラブの役員を引退したら、時間を気にせず、温泉や美術館

ヒーロー、団体の情報募集中

「ヒーローズ」は皆さんの情報提供をもとに取材、編集しています。この人、あの団体をヒーローズで取り上げてほしいという情報がありましたら、編集部鈴木龍司(アーバンラフレ第1町内会)まで一報ください。 ☎080・3502・3534

に行ってみたいね。
岡本さん 死ぬときは「ピンピンコロ」で逝きたい(笑)。学区の仕事は人に迷惑を掛けるようにならないまでは続けたい。
◆お互いへのエールをお願いします
三溝さん 岡本さんは記憶力が抜群です。学区の生き字引ですわ。人の悪口も絶対に言わない。今は100歳まで生きる時代。これからも、学区の宝として頑張ってもらいたい。
岡本さん 三溝さんは人をまとめることがうまい。上に立つべき人だね。戦時中に育った我々は、我慢することを知らず。三溝さんが現役ということは、自分の刺激になるね。

東志賀ヒーローズ



野球・ソフトボール

鍛え抜かれた肉体と精神力で、東京五輪をわかせた世界のトップ選手たち。東志賀学区には、新型コロナにも、猛暑にも負けないジュニアスポーツクラブのアスリートが大勢いる。地域の温かい目に支えられながら、今日も元気いっぱい、仲間と汗を流している。

「ナイスバッティング!」。小学校の校庭に球児の大きな声が響く。ジュニアクラブの野球とソフトボールチームには約25人の児童が所属。OBや保護者の指導で、懸命に白球を追い掛けている。コロナで中止になっていた練習が再開し、7月10日には本年度の初の練習試合に臨んだ。投打が噛み合い、北区の相手チームに14対1で快勝。リーグ戦や大会を心待ちにしなが、練習に明け暮れている。野球部キャプテンの丸山泰世君(6年)は「まずは大会で1



勝りたい。声出しやプレーで引つ張りた。ソフト部主将の矢野千晶さん(6年)は「三振を取ったり、うまく守れたりしたときが楽しい。リーグ戦で勝ちたい!」

新スポーツ・テニポン

と意気込む。監督の武藤吉範さん(57)は「大きな声であいさつをする、道具を

木製のラケットで、スポンジのボールを相手コートに打ち返す。白熱のラリーが続く。得点が決まると、ガッツポーズに合わせて仲間の歓声が飛ぶ。テニポンは「誰でもどこでも」を合言葉に、北海道で生まれたニュースポーツだ。ジュニアクラブには児童約15人が所属。毎週土曜の午前9時から正午まで、小学校の体育館で和気あいあいとプレーを楽しんでいる。

大事にして感謝の気持ちを忘れないチームでありたい。勝ち負けが全てではないが、勝たせてあげたい」と話している。練習メニューは高学年向けのAチーム、低学年のBチームで分けている。問い合わせはホームページ「東志賀ジュニアクラブ new」から。

今回のイラストは東志賀小6年の雪廣みさきさんの作品です。皆さんからのご応募お待ちしております。

今月の題字

クラブのモットーは「やるときはしっかりやる」。プレーだけでなく、あいさつや準備、掃除も。高学年が低学年を指導し、子どもたちが主体的に取り組む。コロナでプレーできない時期もあったが、6月からやつと再開できた。川井涼介君(6年)は「仲間の応援が勇気になる。友達との信頼関係が深まる」と魅力を語る。部長の寺澤文花さん(60)は「あいさつなどの基本は厳しく指導しています」と説明。「運動が得意な子もそうでない子も、一緒に体を動かして楽しめよう。興味がある人は体育館に見学に来てほしい」と話している。

コロナと暑さに負けず!

未来担うジュニアアスリート

フットサルチーム FC MINAMI 始動!

小学3年生を中心に、東志賀小学校の体育館などでフットサルを楽しんでいる「FC MINAMI (ミナミ)」。発足は4月。学区で支えるジュニアクラブの新顔だ。

チーム名は子どもたちから「南公園」と呼ばれ、親しまれている東志賀公園がルーツ。「南公園に



行けば、誰かと遊べる」。チームには、体を動かすことが大好きな子どもたちが集まっている。

フットサルは、幅広い世代と一緒に楽しむことができ、足のテクニクなど技術が身に付きやすい利点もある。

チームは家族参加型が特長だ。保護者がコーチを務め、協力し合ってチームを運営している。親子一緒に、練習や準備、

片付けに汗を流す。保護者らは「初心

者も多いですが、親子対決などネットホーミな雰囲気楽しんでいきます」と説明。「勝ち負けも大事。でも、練習したことができたと思いつき褒めてあげることが大切になっています」と話す。

参加している子どもたちは「勝つためちやくちやくうれしい」と笑顔。競技の魅力を一仲の良い仲間全員で、声を掛け合ってプレーするところ」と話す。将来プロサッカー選手になりたいというキッズも多く、東京五輪の日本代表として活



坪井勉さん (77)

体育委員長に聞く

「体と心 地域で育てる」

◇子どもたちのスポーツも新型コロナウイルスの大きな影響を受けてきました。

本日に自粛、自粛でね。学校や日常生活でも、子どもたちはずっと我慢を強いられてきましたよね。授業やキャンプなどもそうです。やっぱ

り体を動かして汗をかくと、気持ちよくなると、気持ちはスッカッとしますよね。そういう意味でも、学区でスポーツに打ち込める環境があることは、子どもたちにとって大事だと感じています。

◇子どもたちの教育にもスポーツはブラ

- ### 学区の体育イベントのお知らせ
- ◇学区ふれあいグラウンドゴルフ大会
十月十七日(日) 予備日二十四日
 - 東志賀公園
 - ◇学区「わが街ウオーキング」
十一月七日(日) 東志賀公園集合
 - ◇学区親善ソフトボール大会
十一月二十一日(日) 庄内緑地グラウンド
 - ◇学区「大運動会」
十一月予定
- ※新型コロナウイルスの感染状況で変更あり

躍した久保健英選手やアルゼンチンの英雄、メッシ選手らが憧れという。

練習は土日を中心に週1〜2回。社会人チームの監督に定期的に指導してもら

たり、近隣チームとの合同練習や大会に出場したりもする。

入部希望などの問い合わせは、丹羽英太郎さんへ。電話090(2266)0406

スがありそうです。

学区のジュニアクラブの試合や行事に顔を出させてもらうことがあります。監督さん以下、子どもたちはあいさつがしっかりしている。マナー良く、ハキハキとね。我々もすごく気持ちが良いんです。まさに健全育成。体と心の両面を育ててくれるところが、スポーツの魅力だと思います。

◇自身もスポーツが大好きと聞きしました。

私は特に野球ですね。ナゴヤ球場やナゴヤドームなどの関連会社で、広告や宣伝の仕事長くしました。若いころから草野球に熱中して、地元の連盟の会長を40年以上、務めています。体育委員も40年以上前から続けさせてもらっています。東志賀学区はまとまりがある。私もその一員としてがんばりたいですね。

ヒーロー、団体の情報募集中

「ヒーローズ」は皆さんの情報提供をもとに取材、編集しています。この人、あの団体をヒーローズで取り上げてほしいという情報がありましたら、編集部鈴木龍司(アーバンラフレ第1町内会)まで一報ください。

☎080・3502・3534



資源ゴミ回収 最後の砦

保健環境委員 分別ルール 地道に指導

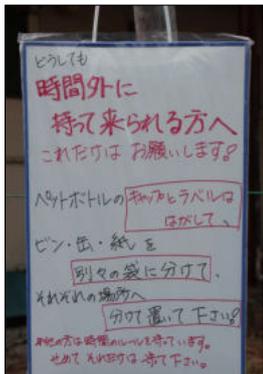
雨の日も、雪の日も、祭日でも、そしてコロナ禍でも。週に一度の資源ゴミ回収日になると、保健環境委員や有志の住民が早朝から、それぞれの収集場に出動する。ルール通りに分別されているかをチェックするのが任務。外出自粛で家庭ゴミが増える中、「きれいな学区」を守ってくれているヒーローたちの活躍に迫る。

マナー良く、気分良く

「おはようございます」。朝7時前、学区内の収集場で保健環境委員たちが、資源ゴミを出しに来た住民に声を掛ける。近年、分別などの

マナーは向上しているが、一部ではまだまだ違反行為が目につくという。ラベルやキャップを外さず、飲み残しがそのままのペットボトル。タ

バコの吸い殻が入った空き缶。決められた朝ではなく、深夜に運び込まれる資源ゴミで違反が多い。「悔しくて、片付けたくなるけど、今はコロナの感染対策で手を突っ込めない」。委員を務める50代



の女性はそう嘆き、「ルールを守れないのは一部の人だけです。一度、委員をやってみると、気持ちが変わると思います」と話した。資源ゴミは再利用の工場に運ばれ、収益の一部は学区のつなぎを守るための活動資金になっている。委員や有志のメンバーは「地域のために」と、奉仕の精神で任務に当たっている。

ベテランの浅井和子さん(77)は「自分にできることで貢献したい」と10年以上も委員を続けている。「声を掛けられれば、皆さん、しっかりと分別してくれる」とやりがいをお話。コロナで住民の触れ合いが制限される中、ゴミ出しのあいさつは貴重な交流の場でもあるという。顔を知らなかつたら災害の時だって助け合いはできない」と意義を強調する浅井さん。「自分が健康だから、今もこの仕事を続けていられる。人との交流が元気の秘訣ですよ」と笑顔だった。

「コロナ禍で家庭ゴミが増加しています。感染予防でゴミに触れないよう、保健所から指導があります。だた、分別が不徹底だと、委員は「手を出したい」という思いになります。感染者を出さないためにルールを守ってほしい。我々は手本の存在でありたい。」



二村巖さん(73)

「コロナ禍 衛生意識高めて」保健環境委員長に聞く

◇資源ゴミ回収は社会貢献の側面もある。貧困国の子どものワクチン確保や、障害者雇用にもつながっています。ペットボトルの粉碎工場を見学した際、飲み残しによる腐敗臭が強烈で、苦労されています。意識を高めてほしいですね。

◇ご自身も建築関連の事業の傍ら、委員長や町内会長を長く続けてきた。一人暮らしなので、みんなでワイワイやるのが楽しい。人の喜ぶ顔を見ると、嬉しい。生きがいです。結束力が強い学区の伝統を一緒に守っていきたくですね。

第4号のタイトルのイラストは、東志賀小6年の矢野千晶さんの作品です。皆さんのご応募お待ちしております。

今月の題字

ウェブ会議・電子回覧板に挑戦！

ICT推進特区に



東志賀学区で「ICT化」の新規プロジェクトが始動した。市が募集した「ICT」推進モデル地区に選ばれた。長引くコロナ禍で地域活動の停滞が心配される中、パソコンやスマートフォン、タブレット端末などを有効に活用し、住民の結び付きの維持と強化を目指している。

ネットですながら守る

会議の中止や交流イベントの延期が続くコロナ禍で、市は「ICT」の普及を急いでいる。ICTとは情報通信技術を活用したコミュニケーションの略語。インターネットの技術を用いて、遠隔地にながら交流したり、

高齢者らの孤立化を防いだりしようという試みだ。先日、学区役員らによる初会合が開かれ、本年度はオンライン会議と電子回覧板に挑戦することが決まった。オンライン会議はテレビ電話とよく似

た仕組み。コロナ後企業で定着し、学校もオンライン授業の体制を整えてきた。学区で導入を進めれば、緊急事態宣言中でも画面上で会議が可能になる。また、仕事や子育てで忙しい現役世代も、会社や自宅から参加することができ、地域活動の担い手の拡大が期待できる。

電子回覧板は紙に代わってデータで生活情報を伝える仕組み。従来の回覧板には「感染対策上、不安だ」との声があるといい、各地で導入の動きが出ている。学区では、人の声をAI（人工知能）で認識し、要望に応じてくれるスマートスピーカーの勉強会



「聞こえますか？」

ウェブ会議 体験

務め、天気やコロナの感染状況を尋ねたり、健康体操の動画を流すように頼んだりして使い方を学んだ。早速、オンライン会議も体験。独居高齢者や認知症患者の見守りでも、有効な方法になりそう。ただ、機器に不慣れな高齢者も多い。今後は従来の対面型の活動を基本としつつ、便利な技術を取り入れていくことになる。学区連絡協議会の山崎悦男会長（72）は「コロナで交流やつながりが薄れることが心配。まずは、できることから取り組んでいきたい」と話している。

儀、相手を思いやる心が育つ」とのめり込み、支部を持つまじりになった。東志賀小、北陵中OBで現在も学区で暮らす。地元の魅力や「昔から悪い事をした子どもを注意できる大人がいる。良い意味で、都会ぶらない。人が優しい」と話す。稽古に一番早く来た門下生をたたえる「一番乗り賞」を2年連続で獲得したのは、東志賀小3年の丹羽航一朗君。「空手が強い人は優しい。自分もそんな人になりたい」と師匠の思いを受け継ぎ、友達と稽古に励んでいる。稽古は毎週月曜日午後6時から。コロナの状況で変更あり。問い合わせや申し込みは北岡さんへ。

空手 明るく、強く、礼儀良く

「氣を付け！礼つ！正座！」。「ハイっ！」。

東志賀小学校の体育館に、児童らの魂の

こもったかけ声が響く。沖縄少林流ハワイ聖武館城北支部の稽古が始まった。門下生は4歳児から大人まで幅広い。集中力を高め、キレの良い技を繰り出す。

「空手は反復練習。自分に負けない心をも身につけてほしい」。そう語るのは支部長の北岡祐司さん（54）。息子と空手を始め「先人を敬う礼

沖縄少林流ハワイ聖武館・城北支部



ヒーロー、団体の情報募集中

先日、ジュニアスポーツの児童から「自転車で転んだおじいちゃんを助けた」と聞き、温かい気持ちになりました。地元のヒーローの情報をお寄せください。学区編集部の鈴木龍司まで。☎0800・3502・3534

8238

☎090・4155・8238

2021年(令和3年)
10月(第5号)
発行:東志賀学区
連絡協議会

東志賀ヒーローズ

一丸!コロナ啓発

青パト 消防団が総力

5度目の緊急事態宣言が発令されていた9月。学区の防犯委員で運営する通称「青パト隊」と、消防団がタッグを組み、新型コロナウイルスの感染防止対策を訴え続けた。願いはただ一つ、学区住民の健康の維持。地道な活動に取り組む両団体のヒーローたちに迫る。

「緊急事態」住民に周知

コミュニケーションセンターに、防犯委員と消防団員が集まってきた。ユニホームと活動服姿が凛々しい。防犯パトロールカーと消防団の広報車に乗り込み、任務に出勤していった。
「マスクの着用やうがい、手洗いを徹底し:」、
「不要不急の外出は控え:」。昼間の住宅街や幹線道路に、コロナ



てマイクの音に耳を傾けていた。車に向かって手を振ったり、頭を下げたりして活動をねぎらう住民の姿もあった。
日ごろは、防犯と消防の各分野で、学区の安全と安心を守ってくれているメンバーたち。長引くコロナで活動の一部が制限されているが、これ以上の感染拡大を食

い止めようと、手を携えて啓発活動に奮闘した。
コロナ禍のステイホームによって、高齢者を狙った犯罪の増加が心配されている。家での食事の機会が増えたことで、火災のリスクが高まると指摘されている。コロナに負けず、両団体の活躍は今後も続く。



学区団らん♪ 子ども食堂

おかださんの台所



保護司の岡田常晴さん(56)と妻智子さん(59)が2017年から月一回のペースで続けている子ども食堂「おかださんの台所」は、学区団らんの食卓として幅広い世代に人気だ。
「お邪魔します!」。東志賀小学校から程近い、岡田さんのご自宅に、お腹をすかせたお客さんが次々にやってくる。児童の仲良しグループや三世代の家族連れ、年配の住民が、自宅

孤食を防ぐための子ども食堂は、参加者を「子ども」に限定する団体も多い。「誰でも集まれるサロン」を理想とする岡田さん夫婦は、お

裏面に続く
防犯委員長と消防団長の緊急対談!
子ども食堂を開く岡田さんの思いとは:

のような雰囲気です。つるぎ、愛情のこもった手料理と会話を楽しむ。「お代わりお願いします」。岡田さん夫婦を支えるボランティアの大学生や住民が忙しく台所を行き来する。

参加費は小・中学生100円、高校生以上300円、70歳以上200円、未就学児は無料。
問い合わせは常晴さん 電話080・4376・3650

今月の題字 第5号のタイトルのイラストは、東志賀小6年の里崎和花さんの作品です。皆さんのご応募お待ちしております。

緊急対談！ コロナ禍の安全・安心

家に1人、狙った犯罪警戒 ステイホーム、火災注意を

防犯委員長・北川勝弘さん



は火を使う。その分、火災のリスクは高まりま

◇コロナ禍の不安は。北川さん 喫茶店通

にいたる独居高齢者が犯罪に遭わないか心配です。本来、喫茶店は貴重な情報交換の場だったはずで

◇活動の一部が制限されています。北川さん 地域の皆

さんが意識を持つことが、犯罪の抑止力になると思います。防犯委員も強制では



消防団長・犬飼邦雄さん

コロナ対策の啓発のよう

防犯委員長を務める北川勝弘さん(76)と消防団を率いる犬飼邦雄さん(71)。東志賀学区の安全安心を守るキーマンのお二人が、コロナ禍の注意点や日ごろの活動への熱意などを語り合っ

も、長い活動歴をお持ちです。

北川さん 委員長は6年目ですが、委員

は30代のころからです。先輩に声を掛けられ、「町のため

てほしい」と頼まれたことがきっかけです。

◇活動のやりがいと課題は。北川さん 周りの人

は協力的で、仲間意識が強いね。気が付いたらここまで来たという感じです。課題は若い世代にどう

ルをできないかと考えています。

今年も敬老の日の行事は中止となりました。学区で暮らす75歳以上の方は約1400人余に上ります。学区連絡協議会は、

祝ご長寿・学区の思い

封筒に詰め、町内会役員がご自宅を回りました。「コロナ禍でもお元気に」との願い

岡田常晴さん



子どもの食堂 「周りの助けで今がある」

「人助けをしよう」と思ってから、

結果として、自分が周りの人から助け

「おかださんの台所」を開く岡田常晴さん(56)は、5年目に入った活動を振り返る。

食堂には毎回、エプロン姿の住民や大生がボランティアとして集う。「私が若いころと比べて、若い人のボランティアへの熱量、意識の高さを感じます」と話し、「物理的な人

学区のために汗をかき住民に、積極的に感謝の言葉を伝えるようになったという。「お互いに声を掛け合い、それがまた励みになる。その好循環が地域の力になると思います」

地元の英雄 情報を募集

身近なヒーローの情報をぜひ、お寄せください。学区編集部 鈴木龍司まで。 ☎080・33502・3534